

## 福島第一原子力発電所廃炉検討委員会セッション

「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」活動報告 —廃炉の安全・円滑な実施に向けて—

## (1) 活動の概要

Report from the Committee of TEPCO's Fukushima Daiichi Decommissioning

## (1) Summary of Recent Activities

\*宮野 廣<sup>1</sup><sup>1</sup> 廃炉検討委員会委員長, 法政大学

抄録 福島第一原子力発電所の廃炉は昨年、長期活動の指標としてのロードマップが定められた。

今年5月には具体的な個別の開発目標が戦略プランとして定められた。現状の技術開発の状況を共有するとともに、学会としてそれを支援する活動について広く報告意見交換を行う。

**キーワード**：福島第一原子力発電所，廃止措置，技術開発，

Fukushima-Daiichi Nuclear Power Station, Decommissioning, R&D

**1. 緒言**

廃炉検討委員会が発足して2年が経過した。

福島第一原子力発電所の廃炉は、かつて経験のない技術的な挑戦を伴いつつ、極めて長期に亘り継続される国を挙げて取り組む事業、重要な国家プロジェクトである。内閣、経済産業大臣を頂点とする組織体系が整えられ、予想される技術的な困難さから、世界がその進展に関心と懸念を示す中、世界の英知を集め、事業を進める体制ができた。原子力学会は、原子力分野の専門集団として積極的な貢献を行うことはもちろん、「学」の総力を挙げた取り組みが求められている。

**2. 目的**

廃炉検討委員会では、福島第一原子力発電所の廃止措置が安全かつ円滑に進むよう、技術的・専門的な視点から貢献するとともに、学会事故調の提言・課題のフォローを目的として活動してきた。特に関心の高い検討課題については分科会を設置して精力的に活動を進めている。今年度は新たに廃棄物検討分科会を設置した。さらに、事故時の様々な事象に未解明のことも多く、その解明に取り組むべくWGを発足させた。本企画セッションでは、これらの活動を広く学会員をはじめ、社会の皆さんに理解いただくべく、機会を得て報告している。

**3. 各報告の概要**

福島第一原子力発電所の廃炉作業の進捗状況と昨年とりまとめられた廃炉作業全体のロードマップに基づく個別の進捗の状況を今年5月に新たに取りまとめられた「戦略プラン2016」を中心にNDFより論点を報告する。また、2018年に近づいた炉内、格納容器外より溶けた燃料の取り出し作業の工法の決定を目指した開発の状況などを中心にIRIDより報告する。

原子力学会からは、リスク評価分科会、廃炉検討分科会、事故提言・課題フォロー分科会、建屋の構造健全性評価分科会より活動状況を報告する。

報告のほか、ロボット分科会ではロボット学会との連携により廃炉作業の重大課題となっている燃料デブリの取り出しのための格納容器下部に侵入できるロボット技術の開発へのチャレンジを学会あげて取り組んでいるところである。ロボット学会の日程が原子力学会と重なりここでの報告はできなかったが、ここに紹介しておく。

---

\*Hiroshi Miyano<sup>1</sup>, <sup>1</sup>Chair of the Committee, Hosei Univ.